



Baby Factory and Gestational Surrogacy in Nigeria.

ナイジェリアの Baby Factory と代理出産

Interviewee

Dr. Olanike Adhlakun

Q. 研究者としてのバックグラウンド、専門領域、これまで実施した研究について教えてください。代理出産に関心を持ったきっかけは何でしょうか？

現在、ナイジェリアのアメリカ大学で講師を務めている。法学を修めた。2007年にナイジェリアで弁護士として登録した。2010年にLNMを修了し、その後、南アフリカ大学で博士号を取得した。博士課程の研究で、ナイジェリアと南アフリカの代理出産の比較を行った。

これまでずっと女性と子供の保護に関心を持ってきた。法学研究の最終年に、セクハラに関する調査を実施した。弁護士として登録してから、先住民の女性と子供を代弁する国際女性弁護士連盟に参加している。代理出産に取り組むきっかけは、女性と子供を保護するという関心から。

Q. ナイジェリアで、不妊の夫婦はどのようにそれを解決して来ましたか？

伝統的に、ナイジェリアでは不妊は女性の問題と見られている。ナイジェリアの社会は極めて父権的(paternal)で、女性が妊娠できない場合、それは彼女の過失であるとみなされる。その女性が不妊であると思われたら、彼女は不毛(barren)と呼ばれ、別の夫を見つけるのが難しくなる。

ナイジェリアにはいろんな文化がある。不妊の問題を処理する方法は文化によって異なる。ある場合には、不妊の女性は、夫と結婚してくれる別の女性を見つけなければ

ならない(妻はそのための費用を夫に支払わなければならない)。この2番目の女性の「仕事」は妊娠することであり、彼女から生まれた子供は不妊の女性の子供と見なされる。これがナイジェリアの伝統的な代理出産だ。

不妊を克服するための最も一般的な方法は、夫が2番目の妻を連れて来ること(大抵の場合、彼の家族の提案で)。妻の不妊の問題で、夫が最初の妻と離婚して別の女性と再婚することは、一般的に見られる離婚事由だ。しかし、今日では、ナイジェリアの社会は徐々に生殖補助医療を受け入れつつある。生殖補助医療の中で最も受け入れられているのは体外受精。これは夫と妻の両方からの配偶子を使うので、代理出産よりも受け入れられている。代理出産は不道德だと思われる。

Q. 呪術はありますか？ 不妊に関して、どのように用いられていますか。

地元のハーバリストや伝統医学の医師にアプローチすることは、不妊を克服するための伝統的な方法だった。彼らは、「あなたが妊娠できない理由は、あなたが何か悪いことをしたか、誰かから呪われているからだ」というようなことをよく言う。そして、患者に、神々や怒らせた人をなだめるために犠牲を差し出すよう指示する。伝統医学の治療師はまた、飲み物や食事などのハーブ療法を提供する傾向がある。効くという人もいるが、これについて個人的にコメントすることはできない。

ナイジェリアは非常に宗教的な国。不妊に苦しんでいるカップルの中には、精神的な癒しを求めて宗教指導者に相談する人もいる。そして中には、それによって妊娠できたと言う人もいる(神から祝福されて子供が生まれたと)。



人々は今でも伝統的な選択肢を開拓している。医療は一般的にそれに次ぐ選択肢になっている。

Q. Baby Factories の記事を見ました。血縁がない子供は貰い手がありますか？ それとも人々は血縁にこだわりますか？

ナイジェリアは非常に父権主義的な社会で、自分の生物学的な子供を持つことに大きな重点が置かれている。生物学的に関係のない子供を持つことはなかなか受け入れられない。これは、多くの人が配偶子提供を隠すために嘘をついていることを意味する。養子縁組の場合でも、親の実子ではないため、子供はスティグマをきせられる。

女性が代理出産によって母親になると、自分が妊娠しているふりをすることがよくある。医師は、妊娠しているように見えたり、子供に母乳を与えたりすることができるような身体的変化をもたらすホルモン注射を処方することがある。

Q. Baby Factories のような慣行は、新しいものですか？ それともかなり昔からあったことでしょうか？ 誰が関与していますか？

Baby Factory はかなり前からあった。初めて国民に意識されたのは 2006 年のことだった。それ以来、政府は多くの施設を発見している。ナイジェリア社会が生物学的関係に焦点を当てている限り、不妊のカップルが家族に対して秘密で子供を得る方法として、Baby Factory は存続するだろう。過去 10 年間で多くが閉鎖されたが、その後もたくさんの Baby Factory が発見されている。

医師は出産をサポートするために関与している。助産師やエージェント、そして宗教団体や教会も何らかの役割を果たしている場合がある。

報告書によれば、儀式や養子縁組のために Baby Factory から子供を購入する場合もある。

Q. Baby Factories は、ナイジェリア以外の他のアフリカ諸国にもありますか？

よくわからない。報告書から、ケニアにも同様の施設があるようだ。ただし、ナイジェリアでもっと一般的。

Q. 外国人依頼者は来ていますか？ どのような国から？ 異性カップル以外の人にもいますか？

報告書には、外国人が Baby Factory を利用するためにナイジェリアに来るかどうかが書かれていない。国際養子をした外国人依頼者も利用できるもので、そうしたことはあり得る。多くの場合、養子縁組をする際に、ナイジェリア側で書類が改ざんされている。しかし、依頼者はそれを知らない。

代理出産を求めてナイジェリアに来る外国人依頼者がいるが、彼らはナイジェリアのディアスポラ、または夫婦どちらかがナイジェリア出身のカップルであることが多い。多くは英国出身だ。これは、ナイジェリアでは規制がほとんどなく、法的な障害が少ない、西欧社会よりもはるかに安いことが理由として考えられる。

Q. 代理出産の場合、妊娠中は、代理母ハウスのようなところで過ごしますか？ 依頼者と代理母の交流はありますか？

ナイジェリア社会は道徳に高い価値を置いている。そのため、一部の代理母は妊娠中に身を隠し、人々の前から消える。自分が調査した結果によれば、一部の病院が代理母に宿泊施設を提供している。一方で、一部の代理母は国をまたいでサービスを提供することがあることもわかった。

ほとんどの人はそれについて自ら話すことはないが、一部の代理母候補者は、ソーシャルメディアを介してよりオープンにサービスを宣伝し始めている。

Q. アフリカ大陸のうち、南アフリカやナイジェリア以外で、代理出産が盛んな国はありますか？



か？ 今後、代理出産ツーリズムが盛んになりそうな国はありますか？

ケニアでは代理出産が盛んになり始めていて、それをどう規制するかについて懸念が高まっている。ケニアの女性の中には、代理母になるために海外（以前はインド、現在はネパール）に渡航する人もいる。彼女たちはそれを、国を去るチャンスだとみなしている。ガーナでも代理出産が行われている。

Q. ナイジェリアで、配偶子ドナーの匿名性や子供の出自を知る権利はどのように議論されていますか？

ナイジェリアで業界はまだ規制されておらず、この問題について多くの議論がある。親が自分の子供を持つことが非常に重視されているため、政府はまだ出自を知る権利にそれほど注意を払っていない。インドでは出自を知る権利を含んだ法案が提出されたが、自分の見解では、現時点で、そうした法律はナイジェリアの社会にはあっていない。

非倫理的なことがたくさん行われている。最近、あるドナーが、500人以上の子供がいるかもしれないと告白した。このことを知って、彼は、子供同士が結婚してしまうのではないかと心配していた。さらに、患者の同意なしにドナーの配偶子が使われることもある。その結果、それは実際には医療者がやったことなのに、夫婦間の不貞の訴えにつながった。

クリニックの大部分は首都ラゴスにある。政府は近年、臨床のルールづくりとして、拘束力のないガイドラインを導入した。ただ、ドナーから生まれた子供が、ドナー情報にアクセスできるかどうかはわからない。ドナーは提供する前に匿名条項にサインしないようだ。これが何を意味するかは不明。

Q. 高齢の女性が卵子提供で子供を産むようなケースはありますか？

体外受精を使って自分の子供を産んだと主張する50代の女性の事例を知っているが、ドナー配偶子を使ったかどうかについてコメントはなかった。女性が身体的に妊娠、出産したことは、その子供が生物学的に自分のものであることを人々に納得させるのに十分だ（ドナー卵子を使用したかどうかは重要ではない）。

Q. 旧宗主国のイギリスとの関係はどのように見られますか？ イギリスやアメリカなどでは、代理出産に関して、ギフトや利他的ナラティブが盛んですが、ナイジェリアにその考えは見られますか？

商業的代理出産はナイジェリアで盛んで、おおっぴらに宣伝されている。例えば、英国からきた依頼者が、母国に帰ったとき、裁判所の親命令をどのように入手しているかわからない。彼らはおそらく、実際にはそうではないのに、その取り決めが利他的に見えるような契約を作成しているのだろう。

利他的な代理出産はナイジェリアでは人気がない。女性たちは代理母になることをおおっぴらに宣伝している。

自分が実施したクリニックでの調査研究から、代理母にはいくつかの共通点がある。

年齢は22歳から38歳くらいの範囲。妊娠の合併症がなく、少なくとも1人の子供を産んでいること。ほとんどが都会出身。ナイジェリアの社会は保守的なので、地方の女性はあまり関与しない。「望ましい」身体的特徴がある（身長、美しさ、肌の色が薄いなど）。ほとんどは大学教育を受けている（少なくとも高卒の学歴）。

報告書によれば、代理母になる主要な動機は金銭だ。彼らは海外旅行、家族への経済的支援、より高い教育を受けるため、または、ひとり親であるためにお金を貯めたいと考えている。



Q. 代理出産の問題は、ヨーロッパの研究者などによっても多く論じられています。ナイジェリアの代理出産の問題は、それらと共通点がありますか、それとも異なる論点がありますか。

ヨーロッパでの議論は利他的な代理出産を容認するか、あるいはそれを完全に禁止するかと言うことに焦点を当てている。ナイジェリアで提出された法案は主に商業的代理出産を支持するものだった。批判的分析によれば、それは、人権に基づくアプローチではなく、ニーズベースのアプローチであるといえる。この法案は、商業的代理出産を促進しながら、すべての当事者を保護するための枠組みを導入したが、代理出産を適切に規制することはできなかった。これが、法案が失効し、法案が成立しなかった理由の1つだ。

ヨーロッパとナイジェリアの代理出産の実践を比較することはあまり適切ではないと思う。ヨーロッパでも、代理出産がほとんど規制されていない国と比較する場合なら話は別だが。

Q. 国連などの国際機関でも国際的な代理出産について議論がなされていますが、これらについての意見やコメントはありますか？

正直なところ、国連は代理出産の分野でたいしたことをしていない。反対に、親権と法的な養子縁組委員会 (The Parentage and Legal Adoption Committee) は、良い仕事をしている。女性を保護するという共通の基盤のもとで議論されている。

Q. その他、コメントは？

もう1つの重要な要素は、ナイジェリアの代理出産業界がいかに搾取的であるかということ。それは全く規制されておらず、極めて新しい、グローバルな概念に基づいている。

従来の伝統的な方法と比較して、今も発展進化している。Baby Factory の場合、妊娠した10代の女性は、出産や子供をあきらめ

るためにそこに行くことがよくある。しかし、誘拐された後、女性を妊娠させるために雇われた男性にレイプされたという噂がある。これは、Baby Factory では人身売買が行われていることを意味する。

現在、ナイジェリアにおける代理出産について、人権に焦点を当てて研究をしている。搾取的な慣行、制度、枠組みに着目している。将来的には、代理母と依頼女性の両方にインタビューして、彼らが直面している障害と彼らが結ぶ契約の性質を理解するための実証研究プロジェクトに着手する予定。具体的には、これらの女性が健康と権利、そして社会認識の観点から何を経験しているかを探求したい。研究助成金が承認されれば、来年すぐにでもこのプロジェクトを開始したい。

(2022年6月)



Dr. Olanike Adelakun [Link](#)

イバダン大学で修士号を取得、南アフリカ大学で博士号を取得。2007年にナイジェリアで弁護士登録。

UNFPAやUN Womenなどと連携し、女性に対する暴力について研究、実践面の双方から関与してきた。研究領域は、人権、家族法、国際私法、ジェンダー研究とリプロダクティブライツ、女性と子供の保護など。

論文:

Adelakun, O.S., (2018) The concept of surrogacy in Nigeria: Issues, prospects and challenges. *African Human Rights Law Journal*.18(2):605-624.

Mary-Ann O. Ajayi, Olanike S. Adelakun., (2018) Surrogacy and Its Implication in Nigeria: Emerging Issues in Women's Reproductive Rights. *ABUAD Journal of Public and International Law*. 1: 204-222.

Adelakun, O.S., (2021) The Effect of Media on the Prevalence of Commercial Surrogacy in Nigeria in F.A.O. Yusuf (ed) *The Fourth Estate within the Five Estates of the Realm*.